

2. 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Radiation Medicine 25(4) 148-154 2007	Comparisons of bone mass measurements of various skeletal sites including quantitative ultrasonography of the calcaneus for assessing age-related losses, their correlations, and diagnostic agreement using the Japanese and WHO criteria for osteoporosis.	Imashuku Y et al.	放射線科
Radiation Medicine 25(4) 155-163 2007	Assessment of diaphragmatic motion after lung resection using magnetic resonance imaging.	Takazaura R et al.	放射線科
Radiation Medicine 25(4) 187-193 2007	Laser-guided computed tomography puncture system:simulation experiments using artificial phantom lesions and preliminary clinical experience.	Nitta N et al.	放射線科
Koren J Radiol 8(5) 418-428 2007	Degradable gelatin microspheres as an embolic agent: an experimental study in a rabbit renal model.	Ohta S et al.	放射線科
Radiat Med 26(2) 76-80 2008	Pulmonary infarction associated with bronchogenic carcinoma.	Takahashi M et al.	放射線科
Investigative Radiology 43(3) 195-201 2008	Quantitative Assessment of Arterial Stiffness by Multiphase Analysis in Retrospectively Electrocardiogram-Gated Multidetector Row Computed Tomography: Comparison Between Patients Under Chronic Hemodialysis and Age-Matched Controls.	Nagatani Y et al.	放射線科
Cardiovasc Intervent Radiol 31(2) 359-366 2008	Is the use of fullerene in photodynamic therapy effective for atherosclerosis?	Nitta N et al.	放射線科
IVR会誌 Jpn J Intervent Radiol 22(1) 16-26 2007	静脈血栓塞栓症の臨床 3. 静脈血栓塞栓症の診断	高橋 雅士 他	放射線科
Ann Otol Rhinol Laryngol 116(6) 471- 478 2007	Duodenal contents reflux-induced laryngitis in rats: Possible mechanism of enhancement of the causative factors in laryngeal carcinogenesis.	Ling ZQ et al.	歯科口腔外科
Cancer Sci 98(11) 1683-1688 2007	High animal-fat intake changes the bile-acid composition of bile juice and enhances the development of Barrett's esophagus and esophageal adenocarcinoma in a rat duodenal-contents reflux model.	Che K-H et al.	歯科口腔外科
日本口腔インプラント学 会雑誌 20 299-303 2007	舌弁切離形成術を要した中咽頭癌術後患者に対する下顎インプラント義歯の1例	西川 正典 他	歯科口腔外科
Oncology Reports 18 633-637 2007	Immunohistochemical demonstration of the type III intermediate filament peripherin in human rectal mucosae and well-differentiated endocrine neoplasms.	Ishida M et al.	病理部
病理と臨床【臨時増刊 号】Vol25 42-56 2007	胃一胃炎および胃上皮腫瘍	九嶋 亮治 他	病理部

小計134

2. 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
日本臨床細胞学会誌 46(2) 99-103 2007	尿細胞診で推定しえたNK/T細胞リンパ腫の1例	石田 光明 他	病理部
診断病理 24 252-255 2007	膵内副費に発生した類表皮のう胞の一例	石田 光明 他	病理部
Oncology Reports 17 1481-1485 2007	GAD34 induces p21 expression and cellular senescence.	Minami K et al.	検査部
Int J Mol Med 19 475- 483 2007	GAD34 inhibits mammalian target of rapamycin signaling via tuberous sclerosis complex and control cell survival under bioenergetic stress IF1.85.	Watanabe R et al.	検査部
Brain Res 1168 97-105 2007	RB1CC1 insufficiency causes neuronal atrophy through mTOR signaling alteration and involved in the pathology of Alzheimer's disease.	Chano T et al.	検査部
J Virol 81 11106-11115 2007	Suppression of viral replication by stress-inducibleGADD34 protein via the mammalian serine/threonine protein kinase mTOR pathway.	Minami K et al.	検査部
医学検査 56 1556- 1559 2007	M7 の寛解後、約13年後にALLを発症したCockayne家系Down症候群の1例	奥野 広子 他	検査部
日本アフェリシス学会 雑誌 2007	膜型血漿分離器によるPlasma Dia-filtration(PDF)-Plasma Filtration with Dialysisi-療法	江口 豊	救急・集中治療部
Altherosclerosis 2007	The Association between High-Density Lipoprotein Cholesterol Level and Cholesteryl Ester Transfer Protein TaqIB Gene.	Tujita Y et al.	救急・集中治療部
Acta Orthop 78 845- 855 2007	Exogenous Collagen Augments Repair of Full-thickness Cartilage Defect by Facilitating Mesenchymal Cell Recruitment.-Detailed Cellular Events during Cartilage Repair-	Kubo M et al.	リハビリテーション科
Cancer Chemother Pharmacol 61(4) 587- 594 2007	Expession level of thymidylate synthase mRNA reflects 5-fluorouracil sensitivity with low dose and long duration in primary colorectal cancer.	Okumura K et al.	化学療法部
Nature Genetics 39 1013-1017 2007	Germline gain-of-function mutations in RAF1 cause Noonan syndrome.	Razzaque M et al.	治験管理センター
日本小児循環器学会 雑誌、23 75-76 2007	肺高血圧症へのsildenafil治療に関する使用実態調査結果	佐地 勉、 中川 雅生	治験管理センター

小計147

2. 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
日本小児臨床薬理学会誌、20 29-32 2007	小児薬物療法根拠情報収集事業における酢酸フレカイニドの選択と進捗状況	中川 雅生	治験管理センター
日本小児臨床薬理学会誌 20 94-97 2007	小児科病棟における適応外薬剤の使用状況	藤田 彩子 他	治験管理センター 薬剤部
外来小児科 10 228-235 2007	QT延長判定基準の改定について	高橋 良明 他	治験管理センター

計150

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る）。
- 2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

(様式第12)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法

管理責任者氏名	病院長 柏木 厚典		
管理担当者氏名	総務課長 植垣 健一 薬剤部長 山路 昭	医療サービス課長 山崎 勝治 放射線部長 村田 喜代史	病院管理課長 大城 雅彦

		保管場所	分類方法
診療に関する諸記録		医療サービス課 (診療情報管理室) 薬剤部 放射線部	診療録等の病歴資料は外来・入院別に1患者1ファイル方式による永久一元番号で分類し、入院が原本10年、10年以上経過後は光ファイリング化及び外来が最終来院日より10年間の保存を原則としている。エックス線写真は最終来院日より7年、死亡患者については5年の保存を原則としている。これらは、コンピュータによる集中管理を行っている。
病院の管理及び運営に関する諸記録			
	従業者数を明らかにする帳簿	総務部総務課	/
	高度の医療の提供の実績	病院管理課	
	高度の医療技術の開発及び評価の実績	病院管理課	
	高度の医療の研修の実績	総務部総務課	
	閲覧実績	医療サービス課	
	紹介患者に対する医療提供の実績	医療サービス課	
	入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	医療サービス課 及び薬剤部	
確保の状況	規則第9条の23及び第1条の11各号に掲げる体制	医療安全管理部	
	専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	医療安全管理部	
	専任の院内感染対策を行う者の配置状況	感染制御部	
	医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	医療安全管理部	
	当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医療サービス課	
	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全管理部	
	医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療安全管理部	
	医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療安全管理部	
	医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療安全管理部	

		保管場所	分類方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第1条の11各号に掲げる体制確保の状況	院内感染のための指針の策定状況	感染制御部
		院内感染対策のための委員会の開催状況	感染制御部
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	感染制御部
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染制御部
		医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	薬剤部
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部
		医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	臨床工学部
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	臨床工学部
		医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	臨床工学部
		医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	臨床工学部

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。

(様式第13)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び紹介患者に対する医療提供の実績

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

閲覧責任者氏名	副 病 院 長 綿 貫 祝 生
閲覧担当者氏名	医療サービス課長 山 崎 勝 治
閲覧の求めに応じる場所	病 院 小 会 議 室

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前 年 度 の 総 閲 覧 件 数		延	0 件
閲 覧 者 別	医 師	延	0 件
	歯 科 医 師	延	0 件
	国	延	0 件
	地 方 公 共 団 体	延	0 件

○紹介患者に対する医療提供の実績

紹 介 率	52.5 %	算 定 期 間	平成19年4月1日～平成20年3月31日
算 出 根 拠	A：紹介患者の数		10,034 人
	B：他の病院又は診療所に紹介した患者の数		7,631 人
	C：救急用自動車によって搬入された患者の数		1,543 人
	D：初診の患者の数		28,966 人

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、B、Cの和をBとDの和で除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。  
2 A、B、C、Dは、それぞれの延数を記入すること。

## 規則第9条の23及び第1条の11各号に掲げる体制の確保状況

① 専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	有 (2名) ・ 無
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有 (1名) ・ 無
③ 医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	有 ・ 無
<ul style="list-style-type: none"> <li>所属職員： 専任 (3) 名 兼任 (16) 名</li> <li>活動の主な内容： 医療事故防止及び感染予防対策の推進に関する事、医療安全管理委員会及び感染予防対策委員会への情報提供及び改善策の提案に関する事、インシデント報告の調査及び分析に関する事、安全管理に関する事例、対策等の情報収集に関する事等</li> </ul>	
④ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	有 ・ 無
⑤ 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有 ・ 無
<ul style="list-style-type: none"> <li>指針の主な内容： 医療安全管理に関する基本的な考え方、医療安全管理のための委員会その他組織に関する基本事項、医療安全管理のための職員研修に関する基本方針、報告等に基づく医療に係る安全確保を目的とした改善のための方策に関する基本方針、医療事故発生時の対応に関する基本方針、患者からの相談に対する基本指針、患者等に対する当該指針の閲覧に関する基本方針等</li> </ul>	
⑥ 医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	年 12 回
<ul style="list-style-type: none"> <li>活動の主な内容： 発生した医療事故の患者及び家族等への対応に関する事 医療事故に係る公的機関への報告及び公表に関する事 医療事故防止対策の企画立案に関する事 安全管理指針の策定に関する事 医療事故防止マニュアルに関する事 医薬品業務手順書の策定に関する事 医療事故報告書の事故状況等の分析に関する事。</li> </ul>	
⑦ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 8 回
<ul style="list-style-type: none"> <li>研修の主な内容： 講師を招聘しての講演会、院内講師による研修会、外部の研修会への参加等</li> </ul>	
⑧ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	
<ul style="list-style-type: none"> <li>医療機関内における事故報告等の整備 (有) ・ 無 )</li> <li>その他の改善のための方策の主な内容： ニュース・レターの発行や院内ホームページへの掲載により、職員に周知している。 毎月の重要なインシデント及びその対策について、各部署リスクマネージャーが周知し、情報の共有化を図っている。院内ラウンドによるチェックを行っている。</li> </ul>	

院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有 ・ 無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <p>院内感染対策に関する基本的な考え方、          院内感染対策のための委員会その他の組織に関する基本的事項          院内感染対策のための従業員研修に関する基本方針          院内感染発生時の対応の基本方針          患者等に対する当該指針の閲覧に関する基本方針          その他院内感染対策の推進のために必要な基本方針</p>	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年 12 回
<p>・ 活動の主な内容：</p> <p>感染予防対策の企画立案に関すること          感染予防対策マニュアルに関すること          感染源の調査に関すること          感染予防対策に係る教育及び研修に関すること等          感染予防対策の企画立案に関すること。</p>	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 7 回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <p>講師を招聘しての講演会、院内講師による研修会、外部の研修会への参加等</p>	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
<p>・ 病院における発生状況の報告等の整備 ( 有 ・ 無 )</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <p>ニュース・レターの発行や院内ホームページへの掲載及び学内メールへにより、職員に周知している。</p> <p>感染対策チーム委員会において感染症の発生状況及びその対策について、検討し、各部署の感染リンクスタッフに周知し、情報の共有化を図っている。実施状況の院内ラウンドによるチェックを行っている。</p>	